

“地域がん登録の精度向上のための方策” を主題として

田島 和雄

第7回総会研究会会長 愛知県がんセンター疫学部

今年度は総会研究会を名古屋市の愛知県がんセンター内の国際交流センターにおいて以下の要領で開催致します。また、昨年度と同様に、研究会前日の9月3日(木)午後14:00-18:00には、同会場にて実務者を対象とした研修会と自由集会を行います。なお、総会研究会終了後には、同センターの食堂で、ささやかな懇親会を予定しております。会員の皆様にはこぞってご参加下さい。会場までの交通の便につきましては、既に、詳細な地図などを会員の皆様へのご案内に同封しておりますので、ご覧下さい。

日時：平成10年9月4日(金) 9:30-17:20

場所：愛知県がんセンター国際交流センター

地域がん登録の主な目的は、先ず、がん対策の羅針盤となるがん罹患の実態(経時間的、地域的特性)の把握であり、次に、がん対策(診断、治療、予防、保健)の効果を評価して行くための情報の構築にあります。地域のがん対策を策定するために、地域がん登録が不可欠となる理由はそこにあります。世界の地域がん登録は30年以上前に東京都で開催された国際がん会議において、故瀬木三雄先生が提案されて始まった経緯があると聞き及んでいます。その後欧米など世界の先進国は、日本を遙かにしのぐ精度の高い地域がん登録を確立していきました。われわれはそういった歴史的背景を再認識して、精度の高い地域がん登録活動の展開を図って行く必要があると思われま

ここで、日本の地域がん登録のかかえている諸問題を要約しますと、1) 恒常的な高い登録精度を維持することを可能とするシステムの不備、2) 登録方法の不統一、3) 個人情報の管理の安全性の確保、などの三点に絞られます。各地域でがん登録事業に携わっている現場の担当者はその対応策に、日夜苦勞されていることと思われます。本総会ではこのような問題を取り上げ、主題を「地域がん登録の精度向上のための方策」としました。特別講演では「急激な進展を見せている韓国の地域がん登録」を、ソウル大学予防医学教室のY-O Ahn教授に紹介していただき、教育講演では「地域がん登録の役割」を大阪成人病センター調査部の大島明先生に解説していただきます。さらに、シンポジウムでは「地域がん登録の精度向上のための技術開発」について討議していただく事になっております。

第7回総会研究会が、日本の地域がん登録精度を向上させていくための幾ばくかの礎となり、地域がん登録情報が、日本のがん対策に大いに活かされるようになり、また国際的にも、より高い評価を受ける情報として発展して行くことを願っております。なお、本会をできるだけ有意義な会とするため、多くの会員の皆様のご参加をお待ち致しております。

なお、研究会についての御連絡は下記にお願い致します。

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1-1

愛知県がんセンター研究所疫学部

井上 真奈美

TEL: 052-762-6111 (内線 8849)

FAX: 052-763-5233

編集後記

一昨年に総務庁の行政監察局が、14県でがん登録について監査を行いました。一般に、中々わかってもらにくいがん登録の問題点を、短い期間の聞き取り調査で正しく理解できるか、と危惧していました。昨年、厚生省老人保健課でのヒアリングを終えて、(a)総務庁は、がん登録についての勧告を厚生省に示しました。また、本年度からは、(b)がん登録の国庫補助金の一般財源化と、これに伴う「要綱」の「指針」への名称変更がありました。ただし(a)と(b)とは独立の事象であると、伺っています。

このような大きな事象が連続する中で、がん登録担当者が老人保健課から直接、これらについてお話を伺う機会はありませんでした。

そこで、前老人保健課長の松谷先生にNewsletterへの寄

稿をお願いしましたところ、御快諾いただきましたが、その後の異動で、新しく赴任された西山正徳先生が、引き継いで下さいました。がん登録に対する長期的展望をお示しいただくには、時期がやや早過ぎたようですが、御多用中、御執筆いただき、厚く御礼申し上げます。

馬淵先生には、米国へ長期に御出発前のお忙しい中を御無理いただきました。小山先生には米国がん登録実務者研修体験をお書きいただきました。英語の医学用語の知識が必要ですが、多くの方々に経験していただきたい、そのため、短期留学を援助する基金などが、将来できればよいが、などとも思う次第です。

なお、今回は記事輻輳のため、Q&Aは休載致しました。

(編集委員：花井 彩、藤田 学)